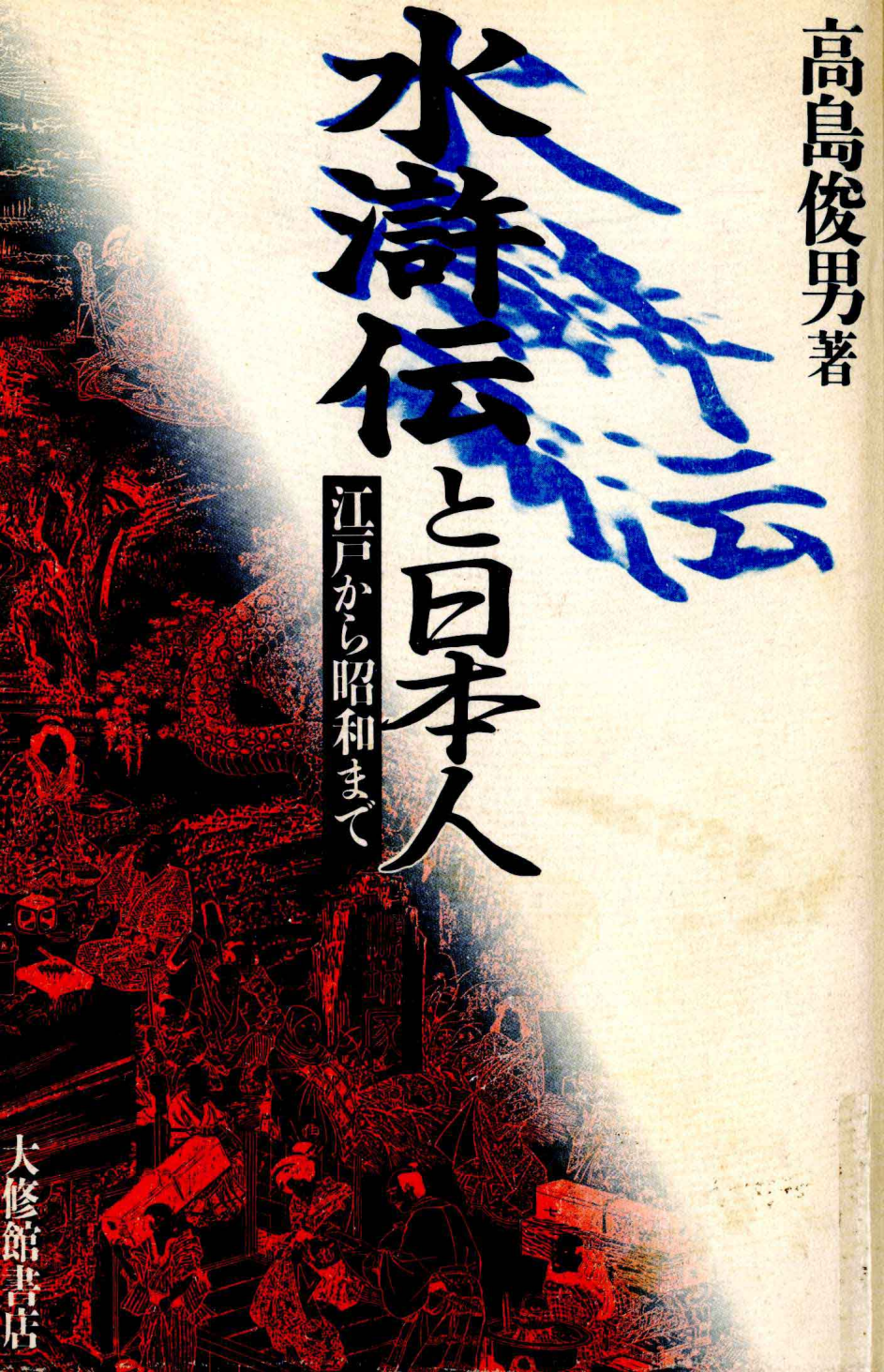


高島俊男著

水滸伝と日本人

江戸から昭和まで

大修館書店





高島俊男著

飛騨の日本人

江戸から昭和まで

大修館書店

高島 俊男 (たかしま としお)

中国文学研究者。1937年生れ。兵庫県相生出身。
東京大学経済学部卒業。同文学部卒業。同大学院人文科学研究科修了。
教職を経てフリー。

著書に

『李白と杜甫』(評論社)
『水滸伝の世界』(大修館書店)
『中国の大盗賊』(講談社現代新書)
『声無き処に驚雷を聴く』(日中出版)
『文学の自立を求めて』(同)
『独断! 中国関係名著案内』(東方書店)

その他がある。

現住所 〒520-02 大津市美空町2-2-503

水滸伝と日本人
江戸から昭和まで

© T. Takashima 1991

1991年2月20日 初版発行 定価2,800円
(本体2,718円・税82円)

著者 高島俊男

発行者 鈴木荘夫

発行所 株式会社 大修館書店

〒101 東京都千代田区神田錦町3-24

電話(03)3295-6231(販売部)/3294-2354(編集部)

振替東京9-40504

装幀/郡 幸男 印刷・製本/函書印刷

ISBN4-469-23076-6 Printed in Japan

中国の、ありとあらゆる小説のなかで、最も痛快で、最も人気のある小説『水滸伝』、——これが、海をわたって日本へやってきたのは、江戸時代の初めである。

この『水滸伝』を、おもしろい話が好物の日本人たちが、どう受け入れ、どう楽しみ、どう消化吸収したか。その、三百数十年の歴史を追っかけてみたのがこの本である。

それは、一面では、わが国における『水滸伝』の、受容・翻訳・研究の歴史であるから、この本は「受容史」「翻訳史」「研究史」の側面を持つだろう。

また、ある国の文学が、他の国の文学にあたえた影響関係をしらべることを、ちかごろはやりのことばで「比較文学」と言うらしい。この本には、『八犬伝』など『水滸伝』の影響下に生まれた日本文学のことも書いてあるから、その意味では「比較文学」の側面も持

つかもしれない。

しかしもちろん、この本は、そんな小むつかしい、かたくるしいものではない。『水滸伝』は陽気な小説なんだから、それについて書いたものも陽気でなくっちゃ、——というのがわたしの考えである。

おもしろく読んでいただけたら、それだけで作者は十分に幸せである。

目次

まえがき

1

第一部 江戸時代

プロローグ 川柳水滸伝……………16

第一章 『水滸伝』がやってきた……………20

1 長生き天海の蔵書……………20

2 将軍所蔵の『水滸伝』……………23

3 元政上人と山形八右衛門……………24

目次

第二章 唐話学習の流行……………29

1 文言と白話……………29

2 長崎と宇治万福寺……………35

3 江戸、荻生徂徠の護園……………37

4 京都、伊藤仁斎・東涯の古義堂……………39

第三章 四つの段階……………42

——原書、和刻、翻訳、翻案

第四章 岡島冠山と和刻本『忠義水滸伝』……………49

1 岡島冠山という人……………49

2 和刻本の訓訳者……………58

3 二集も冠山か？……………62

4 和刻本の底本……………65

5 輝かしい先駆……………68

第五章 『水滸伝』の辞書……………72

1 岡白駒 『水滸全伝訳解』……………72

2 陶山南涛 『忠義水滸伝解』……………74

3 高知平山 『聖歎外書水滸伝』……………80

第六章 『通俗忠義水滸伝』……………85

1 林権兵衛の強情……………85

2 ほんとうに冠山の遺作か？……………93

第七章 『水滸伝』の絵本……………104

1 鳥山石燕 『水滸画潜覧』……………105

2 山東京伝 『梁山一步談』 『天剛垂楊柳』……………106

3 『北斎水滸伝』……………109

4 山東京山・柳亭種彦等 『稗史水滸伝』……………111

5 月岡芳年 『繡像水滸銘々伝』……………116

第八章	中国白話小説と日本文学……………	119
1	都賀庭鐘『英草紙』	119
2	翻案とは何だ	128
第九章	『水滸伝』影響下の江戸の小説……………	136
1	『湘中八雄伝』	136
2	建部綾足『本朝水滸伝』	141
3	『坂東忠義伝』『日本水滸伝』	150
4	伊丹椿園『女水滸伝』	150
5	振鷺亭『いろは醉故伝』	154
6	山東京伝『忠臣水滸伝』	158
第十章	曲亭馬琴……………	165
1	馬琴と『水滸伝』	165
2	『高尾船字文』	170
3	『新編水滸画伝』	172

4	『南総里見八犬伝』	183
5	『傾城水滸伝』	195

第二部 明治以後

プロローグ 芥川龍之介と『水滸伝』	204
-------------------	-----

第一章 明治の『水滸伝』概況	211
----------------	-----

1	逆流に乗って——明治十五年からの活況	211
2	燃えつきた奇士——春風松村操	216
3	伊達の殿様と『第五才子書水滸伝』	221
4	『小説神髓』の『八犬伝』断罪	224
5	帝国文庫登場——日清戦争前後の第二次活況	225
6	子規の弁明	229
7	最初の口語訳——坪内逍遙の見識	232
8	馬琴熱とともに——日露戦争後の第三次活況	233

第二章 旧訳の再刊

	1	旧訳の優勢	236
	2	旧訳再刊本種々	237
(1)		清水市次郎『絵本忠義水滸伝』	237
(2)		武田平治『絵本忠義水滸伝』	239
(3)		法木徳兵衛『新編水滸画伝』	240
(4)		文事堂『新編水滸伝』	242
(5)		一二三堂『新編水滸伝』	242
(6)		帝国文庫『新編水滸画伝』	243
(7)		共同出版『忠義水滸伝』	244
(8)		国民文庫刊行会『水滸伝』	246
(9)		有朋堂文庫『新編水滸画伝』	247
(10)		家庭絵本文庫『稗史水滸伝』	248
(11)		袖珍文庫『新編水滸画伝』	250
(12)		中央出版社『新訳水滸伝』	250
(13)		いてふ本『新編水滸画伝』	251

	(14)	汲古書院『通俗忠義水滸伝』	251
		第三章 明治期の注釈と研究	253
	1	明治の注釈	254
	(1)	松村操『水滸伝講義』	254
	(2)	井上碩田『水滸伝訳解』	255
	(3)	共同出版訓点本『忠義水滸伝』	258
	2	明治の研究	259
	(1)	依田学海「水滸伝考」	260
	(2)	笹川臨風『支那小説戯曲小史』	260
		第四章 『めさまし草』の共同研究	263
	1	『めさまし草』と鷗外の権威	263
	2	「標新領異録」	265
	3	森槐南の概説	269
	4	鷗外の問題提起	272
	5	森田思軒の水滸観	273

第五章	明治の翻訳	280
1	高須梅溪『水滸伝物語』	282
2	伊藤銀月『新訳水滸伝』	290
3	伊藤銀月『水滸伝物語』	296
4	小杉未醒『新訳絵本水滸伝』	298
5	久保天随『新訳水滸全伝』	304
第六章	大正・昭和『水滸伝』概況	309
1	大正概況	309
2	昭和(戦前)概況	310
3	昭和(戦後)概況	313
第七章	龍城・露伴の偉業	316
1	平岡龍城『標註訓訳水滸伝』	316
2	幸田露伴『国訳忠義水滸全書』	325

目次			
		第八章 大正・昭和(戦前)の翻訳 ……………	334
	1	鈴木悦『水滸伝物語』	334
	2	大町桂月『水滸伝物語』	338
	3	蒲原春夫『現代語全訳水滸伝』	341
	4	笹川臨風『水滸伝』	346
	5	宇野浩二『水滸伝物語』	350
	6	弓館芳夫『水滸伝』	351
	7	『物語近世文学・水滸伝』	355
	8	明治以後八十年間の『水滸伝』訳のまとめ	358
		第九章 戦後の両巨峰 ……………	360
	1	吉川幸次郎訳『水滸伝』	360
	2	駒田信二訳『水滸伝』	374
		第十章 その他の戦後の翻訳 ……………	380
	1	佐藤春夫『新訳水滸伝』	380

目 次

2	村上知行訳『水滸伝』	382
3	佐藤一郎訳『水滸伝』	383
4	魚返善雄『新訳水滸伝』	383
5	松枝茂夫編訳『水滸伝』	384
6	おまけ・英訳三種	387

日本における『水滸伝』関係年表	389
-----------------	-----

あとがき	411
------	-----

水滸伝と日本人

江戸から昭和まで

